

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人キラリ財団	
施 設 名	富士見市民文化会館キラリふじみ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業、普及啓発事業	
内定額(総額)	22,050	(千円)
公 演 事 業	18,860	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	3,190	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	キラリふじみ×東南アジア＝ 舞台芸術コラボレーション vol.3 日本・フィリピン共同制作	6/6(木)～6/9(日)	演目：KIN-BALL 作：田上豊、ジェイミー・カタニャグ	目標値	600
		マルチホール		実績値	501
2	サーカス・バザール	7/6(土)、7(日)	舞台美術＋空間デザイン：沼田かおり サーカス構成：アフタークラウドカンパニー 出演：トウイチー・ハーン他	目標値	6,100
		全館		実績値	3,621
3	『キラリ音楽祭 2019』	10/20(日)	出演：ひらたよーこ、矢野誠(ピアノ)、 浜口茂外也(パーカッション)、阿里松慶一 (ベース)	目標値	470
		メインホール		実績値	287
4	二兎社 『私たちは、何も知らない』	11/24(日)	作・演出：永井愛 出演者：朝倉あき 藤野涼子 大西礼芳 夏子 富山えり子 須藤蓮 枝元萌	目標値	460
		メインホール		実績値	339
5	第3回ふじみ大地の収穫祭	11/23(土)	出演：水子上組囃子連中、 水子囃子保存会、龍本教室他	目標値	1,200
		マルチホール他		実績値	1,447
6	キラリふじみ狂言公演 万作の会『蝸牛』『花折』	2/7(金)	演目：『蝸牛(かぎゅう)』『花折(はなおり)』 出演：野村万作、石田幸雄 他	目標値	510
		メインホール		実績値	609
7	橋爪功・夜の朗読	8/29(木)	演目：曾野綾子『長い暗い冬』 皆川博子『夜のアポロン』出演：橋爪功	目標値	460
		メインホール		実績値	460
8	キラリふじみ・ コンサートシリーズ 2020	1/25(土)	出演：島田彩乃、橋高昌男、原嶋唯、 瀬崎明日香、渡邊ゆづき 他	目標値	400
		メインホール		実績値	356
9	キラリ☆かげき団 第14回公演	3/14(土)、15(日)	※新型コロナウイルスの影響のため 中止	目標値	570
		マルチホール		実績値	-
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	キラリふじみの アトリエ・フォーラム	1/26(日)、2/24(祝)	出演：高倉左近(面師)、水子上組囃子連、水子城之下組囃子連、水子石井囃子保存会、中水子囃子保存会の各代表	目標値	280
		アトリエ		実績値	57
2	キラリふじみ・ワークショップ 夏休みこども劇場 『えんげきをつくろう』	7/29(月)～8/4(日)	講師・進行：NPO 法人演劇百貨店	目標値	100
		マルチホール		実績値	32
3	小中学校への アウトリーチワークショップ	10月～2月	東海林尚文(音楽)、田上豊(演劇)、 万作の会(狂言)、塩津圭介(能)	目標値	1,225
		富士見市立針ヶ谷小学校他		実績値	1,383
4	キラリふじみ ダンスカフェ	6/1(土)他	山道弥栄、フィジカルシアターカンパニーGERO、モモンガ・コンプレックス、 岩淵貞太 他	目標値	280
		アトリエ		実績値	513
5	キラリふじみ・ワークショップ 『ツナがる演劇～中高生の 最初の一歩～』	3/21(金)～29(日)	※新型コロナウイルスの影響のため 中止	目標値	30
		スタジオA		実績値	-
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

富士見市文化芸術振興基本計画（平成 26 年策定）の基本目標である、「育む」「活かす」「支える」「繋ぐ」をベースに、当館のミッション〈文化芸術活動による地域振興〉の実現にむけ、芸術監督とアソシエイト・アーティストを中心に、公演事業 8 事業、普及啓発事業 4 事業を以下の 3 つのステップに沿って、計画どおりに実施することができた。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公演事業、普及啓発事業の各 1 事業を中止した。

①幅広い舞台芸術の鑑賞と創造への参加の機会の提供



②市民が地域や自らの可能性を発見し開花させるための場や機会の創出



③市民が心豊かに暮らせる地域社会の創成

個々の事業内容の立案については、以下を勘案し、持続的な展開に意識を置いて行っている。

◆首都圏の 30 km圏内という立地や、農業を生業にこの地に根をおろし先祖代々暮らしている住民から、2000 年代に移住してきた最新世代の住民に至るまで、様々なバックグラウンドやライフスタイルを持つ市民が暮らす地域性。

◆当館の敷地中央にカスケード（水の広場）を望む開放的な空間等の施設的な特性。

本年度は、日本とフィリピンでの本格的な国際共同制作による作品の創作上演や、当館の屋外等のあらゆる空間を活かした上演形態を持つ「ダンスカフェ」等の幅広い鑑賞と創造への参加の機会を提供した。また、「サーカス・バザール」や「ふじみ大地の収穫祭」を中心とした市民協働・参加型事業の実施を通じて、日ごろは触れ合うことのない市民同士、または市民とアーティストが出会い、交流し、市民が地域や自らの可能性や魅力を再発見する機会を提供した。以上のことを通じて、当館の究極的なミッションである市民が心豊かに暮らせる地域社会の創成の実現に向けて、着実に歩みを進めることができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当館では、開館以来、市内外の各種団体との連携・協働を行いながら、多様な市民ニーズに応えることのできる文化芸術活動を総合的に展開している。本年度は、以下のような地域の団体と連携をとりながら、相互の活動が発展可能な事業を進めていった。＊以下は行った取り組みの一例。

◆「日本・フィリピン共同制作」では、外国人居住者の生活支援を行う、「NPO 法人ふじみの国際交流センター」と協働して、稽古期間中に文化交流イベントを実施した。同団体は当館で毎年開催される、国際交流フォーラムの主なる運営団体である。

◆「キラリふじみ・コンサートシリーズ」では、日ごろ、コンサートには来場しづらい、未就学児童を同伴する親子の観客や、市内の障害者福祉施設の入所者にむけて、本番前日のリハーサルを無料招待した。

◆「サーカス・バザール」では、おやこ劇場（志木、朝霞、新座）のメンバーに出店参加をしてもらいながら、青少年や若い世代の劇場との出会いやその入り口となるための展開にむけた連携を図っている。

◆「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」の市内在住のプロの音楽家たちが担当する音楽分野のプログラムでは、開催毎に担当教諭からの合唱指導等の要望を丁寧にプログラムに反映させながら実施をしている。

◆「サーカス・バザール」や「大地の収穫祭」では、市内の農業者や商業者と協働しながら実施してきたが、その中の農業団体が、それらの事業を通じた当館との交流や連携を活かして、当館全館を会場に、団体設立記念の周年イベントを連携を密にとりながら自主開催した。

◆市民が主体となり活動を続ける「キラリ☆かげき団公演」では、市内の公民館施設等で出張公演を行うことで地域との交流を図った。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

平成 23 年度より取り組んでいる以下の目標を持つ公演事業と普及啓発事業を計画通りに実施した。

事業終了後には、芸術監督とアソシエイト・アーティストを中心とした、また外部の協力者とのディスカッションや、公演毎のアンケートや参加者との意見交換の結果を次回の事業企画に反映させた。

<公演事業>

①オリジナル企画中心の事業展開

ここ 8 年間のオリジナル企画の事業数の平均値である、7 本のオリジナル企画を計画し、『キラリ音楽祭 2019』や『キラリふじみ・コンサートシリーズ 2020』等、当館のみで鑑賞・参加できるオリジナルの 6 事業を実施した。なお、『キラリ☆かげき団公演』は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

②創造型事業の充実

芸術監督等のアーティストによる作品創造を、毎年 5 本前後を実施しており、本年度も 5 本の創造型事業をさらに内容面を充実させながら実施することができた。その中でも、「日本・フィリピン共同制作」は、当館が平成 29 年度より 3 カ年計画として取り組んできた、「キラリふじみ×東南アジア=舞台芸術コラボレーション」プロジェクトを締めくくる集大成の公演であり、本年度の中心的な事業として内外の専門家の力を結集し、大きな成果を収めることができた。そのことで共催者の国際交流基金や NPO 法人ふじみの国際交流センターなど、内外の関係諸団体からも高い評価を得ることができた。

③市民と協働する文化芸術を通じた地域・まちづくりのための事業

当館の、市民と協働する文化芸術を通じた地域・まちづくりのための事業として、『サーカス・バザール』（平成 22 年度より開催）と『ふじみ大地の収穫祭』（平成 29 年度より開催）に継続して取り組んできたが、来場者や出店者などの事業規模をさらに拡大することができた。特に『ふじみ大地の収穫祭』では、市の商工会が主催する「ふじみマーケット」を当館の敷地内に誘致し一体的に実施をしたことで、まちづくりの活動に従事する市民との新しい出会いも生まれ、一層の発展に繋がった。

<普及啓発事業>

①幅広い年齢層や多様なニーズに対応する事業展開

平成 23 年度から、市民の多様な文化的なニーズに応えるための中期的な方針を立て、普及啓発事業の多角的な展開と量的な拡充を図ってきた。本年度は、レクチャーシリーズ「キラリふじみのアトリエ・フォーラム」、小学生対象の演劇ワークショップ「えんげきをつくろう」等、5 本の事業を計画・実施をした。

特に、平成 23 年度からアソシエイト・アーティストとして活動をはじめ、今年度から芸術監督に就任した白神ももこが継続して実施してきた普及啓発活動「ダンスカフェ」では、その発展形となる普及型公演『幻想曲』を実施した。この公演では、公募による小学生から大人まで幅広い世代の参加者が考案した、創作のためのアイデアを具体的に作品の中に活かし、また、参加者が本番の舞台進行に加わる等のことにより、普及啓発の新たな形をもった普及活動を実現することができた。

②地域の文化芸術活動の担い手育成

文化芸術活動による地域振興の将来の担い手の育成にむけて、令和 3 年度までの 3 年計画で、市立小中学校の全 17 校でのアウトリーチ・ワークショップの実施を計画した。本年度は、その約 7 割となる 12 校を目標とし、演劇、音楽、伝統芸能のアウトリーチ・ワークショップを総合的に展開し、着実に目標を達成することができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<事業期間>

本年度は、公演事業と普及啓発事業の合計 14 事業を、6 月の「日本・フィリピン共同制作」から 3 月の「つながる演劇」まで、約 10 か月の期間で実施をする計画を立てた。令和 2 年の年明けから蔓延した、新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応として、公演事業、普及啓発事業の各 1 事業を中止したが、その他は計画どおりに順調に実施をすることができた。

計画にあたっては、市民の貸館利用や本助成対象事業以外の、多数の市民参加事業や展示事業の実施スケジュールとのバランスをはかりながら、綿密に事業計画を立て、順調に実施することができた。

<事業費>

まず収支に関して以下のとおりであった。

◇公演事業

収入 [計画]11,086,000 円→[実績]7,590,620 円 (収入率 68.4%)

支出 [計画]55,409,000 円→[実績]47,828,852 円 (執行率 86.3%)

◇普及啓発事業

収入 [計画]227,000 円→[実績]382,600 円 (収入率 168.5%)

支出 [計画]8,652,000 円→[実績]9,505,922 円 (執行率 109.8%)

結果について、各事業の支出については概ね計画どおりに進めることができた。公演事業収入は計画時の 7 割程度の実績となったが、これは、『キラリ☆かげき団公演』の中止が大きく影響している。

また、公演の有料動員数について、計画では、各公演の客席設定数の 7 割程度を有料動員とすることを目標にした。次に、観客動員にむけた取組みとして、通常の広報宣伝や関連企画の実施に加え、市民のボランティア機関の「事業運営サポート委員会」のメンバーや、(1) 妥当性の項目でも述べた、おやこ劇場のメンバーや協働事業に参加した市民に協力を得て販売促進を図った。チケットの料金設定では、要望に近い値の助成を受けられたことで、公演毎にターゲットを絞り、学生、シニア、ペア、U-25、障がいをお持ちの方、団体料金等、様々な観客の事情に対応する適正な価格設定を実現することができた。

各公演事業の有料動員の実績は合計 2,562 名で、計画時の 4,055 名の 63.1%であったが、前述の『キラリ☆かげき団公演』では 540 名を予定していて、例年、同程度の動員実績となるため、これを加味すると 76.4%となり、動員実績の面でも影響した結果となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

◆地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するための資源

当館は、平成 23 年度より、芸術監督に加えてアソシエイト・アーティストの制度を導入した。他方で、外部の創造団体や個人と提携し、多様な舞台芸術のジャンルの創造・上演と普及啓発の活動を実施する体制を築いている。今年度から新たに芸術監督となった、白神ももこ、田上豊は、平成 20 年度から館を拠点とするレジデントカンパニーの代表として活動に加わり、平成 23 年度からはアソシエイト・アーティストとして、当館での創造事業の中核的な役割を担ってきた実績がある。そのため、両芸術監督は、これまでの実績や経験に基づいて当館の施設的な特性を活かした事業展開に取り組み、本年度では、館の敷地中央にカスケード（水の広場）を望む開放的な空間や全面ガラス張りのアトリエ等の施設を活かした「ダンスカフェ」等の事業で大きな成果をあげた。

また、平成 22 年度に就任した当館館長の松井憲太郎は、オリジナル企画中心の事業展開や内外のアーティストと協働する創造事業を実現可能とする制作体制の整備に取り組んできたが、その成果を活かし、今年度は、東南アジアとの舞台芸術コラボレーション『KIN-BALL』（初演）及び、『BEAUTIFUL WATER』（再演）を実現した。

また、アソシエイト・アーティストの永井愛や矢野誠による創造活動に加え、橋爪功（朗読）、西巻正史（クラシック音楽）、西田敬一（サーカスプロデュース）、こんにやく座（オペラ）、演劇百貨店（演劇 WS）などの多様なジャンルの外部団体や個人と提携し、当館オリジナル企画の創造と上演を行った。

◆その資源を最大限に活かした事業展開の実績例

以上の体制をもとに実施をした、公演 8 事業、普及啓発 4 事業の特徴的な実績の一例として、「日本・フィリピン共同制作」では、劇作と演出を担当した芸術監督の田上豊がフィリピン各地をリサーチし、フィリピン側の劇作家と両国に共通する社会的なテーマや創作の構想を丁寧に話し合うところから始めた。また、5 名のフィリピンからのアーティストが富士見市内での暮らしと当館での稽古を開始してからは、全体で文化の違いを確認し合いながら、台詞やシーンへの理解を一步ずつ深めていく集団創造によって作品を創作上演し、当館が平成 29 年度より 3 年計画として取り組んでいる、東南アジアとの舞台芸術のコラボレーションプロジェクトを締めくくる集大成の公演として画期的な成果を上げた。

普及啓発事業「ダンスカフェ」は、本年度で 4 年目の実施となり、この間に様々なジャンルの先進的なダンス作品を上演した。本企画は、会場に地元のカフェや飲食店が出店したり、鑑賞後にトークを行うことで、新たなアーティストと市民の出会いや、観客が地域に対して親近感や興味を感じられるような場として機能している。

今年度は本事業の発展形である、普及型公演『幻想曲』を実施した。この公演では、公募による小学生から大人まで幅広い世代の参加者が、照明や衣装のワークショップに、出演アーティストと一緒に参加し、そこで考案された創作のためのアイデアを具体的に作品の中に活かし、また、参加者に本番の舞台進行に加わってもらう等、普及啓発の新たな形を提示したことで、大きな成果を上げることができた。

上記に代表するような当館の取り組みは、年間事業プログラム冊子、年 4 回発行する事業情報誌の市内全戸配布や約 4,000 通の DM 送付等で事業の方針や内容を周知している。また、インターネットによる広報媒体を活用し、ホームページでの基本情報や重要情報、フェイスブックでの事業の取り組みの様子、ツイッターでの公演当日券情報や周辺道路の混雑状況の等のタイムリーな情報提供など、各媒体の役割を整理し、市民への的確な情報提供と発信を行っている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

当館では、演劇、音楽、伝統芸能等の多様なジャンルの舞台芸術の鑑賞機会の提供に加え、当館ならではのユニークなスタイルをもった市民協働・参加型の事業として、以下の二つのプログラムを継続的に毎年実施している。

◆サーカス・バザール

平成 24 年に開始し、毎年 7 月に行われる本イベントでは、サーカスのパフォーマンスと市民が出店するマーケットが全館を会場に繰り広げられ、毎年市民を中心とした多数の来場者が訪れる幅広い層の市民に人気の事業である。

富士見市では商工会が主体となり商業や農業分野における「地産地消」の活動を市内で推進しているが、当館が企画する本事業により、年代的にも地域的にも幅広い範囲の市民が、富士見市の地産地消の活動に関心を持つようになっている。

また本事業では、商業や農業の垣根や、住んでいる地域の違いを越えて、市民の間に新しい交流や連携関係が生まれている。さらにそうした市民は当館のサポーターとなって、様々な事業に対して協力や支援をしてくれるようになっている。

◆ふじみ 大地の収穫祭

「サーカス・バザール」での市民との出会いの経験を活かし、衰退しつつある地域の祭りの再生を通じてまちづくりを目指すイベント「ふじみ大地の収穫祭」を平成 29 年度に開始し、毎年 11 月に行い、今回で第 3 回を開催となった。

当館は、商業や農業やまちづくりの分野で活動する市民が参加する実行委員会を組織し、本事業を実施している。

当館のホール内やロビー空間などに、郷土芸能が演じられる舞台や農家がつくる料理が並ぶ出店コーナーなどを設けて、地域の人々が創意工夫しながらすべて手作りで祭りをつくりあげている。

本事業をきっかけとして、衰退が目立っていた獅子舞やお囃子などの地域の伝統芸能の活性化を目指す動きが始まっている。

またサーカス・バザールと同様、本事業を通じて、様々な市民の間に新たな交流や連携関係が生まれている。さらにそうした市民は当館のサポーターとなって、様々な事業に対して協力や支援をしてくれるようになっている。

上記の 2 事業を同時に開催するようしてから 3 年目となり、現在では、富士見市内で行われる、夏、秋の各シーズンの主要なイベントとして、全市的に認知されるようになっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

◆適切な人材配置

当館は、マネージャー、芸術監督、館長そして舞台技術者に豊富な経験や実績を有する専門の人材を配置し、組織活動の基盤を整備したうえで、館の貸館業務全般を担う「管理担当」、主催事業の企画・運営を担う「事業担当」の2担当制をとり、担当間の連携を図りながら業務を行っている。

本助成事業の実施を担う「事業担当」は4名で構成し、うち3名がプロパー職員で、いずれも10年以上当館に在籍し、文化芸術事業の経験を有するプロパー職員である。

また、当館は開館以来、市民ボランティア（現在や約50名が参加）を組織し、チケットもぎり、客席案内、託児サービス等の業務を通じて、当館の事業をサポートしてもらっている。さらに、その市民ボランティアのメンバーから構成される、「事業運営サポート委員会」では、毎月一度の会議で、当館の主催事業の運営に対する市民からの評価や要望を把握し、事業内容や運営手法に取り入れている。

◆財源の安定化への取り組み

財務状況の面で、館の維持管理やそれに伴う人件費として、市からの指定管理料（毎年約1億9千万円）が安定的に確保されている。事業収入については、事業支出として充当ができる施設利用料と公演チケット収入増にむけた取り組みを行ってきた。その中でも、一層充実した自主事業展開のための外部の助成金の獲得が重要となっている。現状では、当助成金（劇場・音楽堂等機能活性化推進事業）を中心に、事業ごとに、目的や内容によって、（一財）地域創造や国際交流基金への助成金申請や事業の共同主催の提案等を行い、外部資金の獲得につとめている。

* 以下は過去3年の実績

- ・平成29年度 文化庁 26,600,000円 (一財)地域創造 2,000,000円 国際交流基金 9,498,400円
- ・平成30年度 文化庁 25,338,000円 (一財)地域創造 2,300,000円 国際交流基金 9,700,000円
- ・平成31(令和元)年度 文化庁 22,050,000円 文化庁国際交流支援 11,121,000円
(一財)地域創造 10,000,000円 国際交流基金 9,700,000円

◆各種団体とのネットワークを基礎にした文化芸術活動の展開

当館は、2002年の開館からの17年間、市内外の各種団体との関係づくりを行っており、それらの団体と連携・協働をしながら、多様な市民ニーズに応えることのできる文化芸術活動を持続的に展開している。

* 以下は「(1)妥当性」の項目で述べた以外の連携の具体例

・東武東上線沿線文化施設との連携…東松山市民文化センター、川越南文化会館、和光市民文化センターなどの公立文化施設と定期的に情報交換のための会議を実施。平成26年度に、施設の課題や施設同士の事業連携の方法を考えるシンポジウムを共同で開催した。

・市内の文化施設…市内の中世の城跡を保存している難波田城公園（同資料館）の職員が、「大地の収穫祭」の事業開始当初から実行委員として参加し、市民の現状や多様なニーズを情報共有しながら、地域振興に連携して取り組んでいる。

・社会福祉施設…ゆいの里、むさしの作業所などの障害者支援施設と連携しながら、入所者を対象に、「演劇ワークショップ」を実施し、また「サーカス・バザール」への出店参加を通じて、文化芸術活動を通じたすべての市民に活力を与える活動に連携して取り組んでいる。